

福島大学

行政政策学類

キャリア教養学科

Q. 編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

短期大学を受験する時からです。高校の担任の先生から編入学を勧められました。

Q. 編入までのプロセスを具体的に教えてください。

1年生の12月頃から大学研究を始めました。本格的に取りかかり始めたのは2年生の4月でしたが、かなり遅かったと思います。もっと早くから準備することをお勧めします。

Q. 編入のための学習指導は、いつから、どのような形で行われましたか。

1年生の「キャリア教養特講Ⅰ」の講義を受けてからです。この授業では、大学研究のやり方や小論文の書き方など、初歩的なことを学びました。2年生の「キャリア特講Ⅱ」では小論文の実践練習や志願理由書の書き方を学びました。英語については1年生から高橋先生の授業はすべて履修していました。

Q. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

面接練習に特に力を入れました。志願理由書を書き終えた後からなので、9月に入ってからでした。面接がとても苦手で、何人もの先生方に面接練習をお願いしました。その後は、ひとり小声で面接練習を繰り返していました。心配性でネガティブ思考なこともあり、志望理由書の中で質問されそうな箇所は重点的に練習を繰り返しました。

Q. 編入対策において、先生のアドバイスで役に立ったことを教えてください。

「先生を1番使った人が編入に合格する」でした。小論文や志願理由書の添削、面接練習など様々なことで先生方からたくさんご指導いただき、相談をさせていただきました。確かに、先生方にアドバイスをたくさんいただいていた人は「合格」という結果を出していたと思います。

Q. 編入対策において、聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

「キャリア教養特講ⅠとⅡの授業」はたくさんの学びがありました。小論文の書き方や志願理由書の書き方などの基本を学ぶことができ、実際に小論文や志願理由書を書いて添削指導もしていただきました。力をつけることができたと思います。また、実際に編入した先輩から直接お話を聴ける機会もあり、大変参考になりました。

① 大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学後（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格後の気持ちを教えてください。

②

① 「試験を頑張ろう」という気持ち。

② 「編入に向けて頑張ろう」という気持ち。

③ 「受からないかもしれない」「無理かもしれない」という不安や焦燥感。

④ 「喜び」「これから頑張ろう」という気持ち。

Q. これから桜の聖母短大に入学する、または桜の聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

諦めないで欲しいと思います。夏休み期間中は特に不安や焦燥感を感じ、押しつぶされそうになるかもしれません。友達はもちろん先生方も、どんな時もみんなが味方になってくれます。私は周りのたくさんの人たちに助けていただきました。先生方や友達、周囲のたくさんの方々の力が、大きな支えになってくれるはずです。